

岐阜県立高等学校入学者選抜に関する諮問会（第2回）議事録

日 時：平成23年5月31日（火）午前10時～正午

場 所：岐阜県庁・教育委員会室

- 1 開会
- 2 設置要綱の説明及び委員の紹介
- 3 教育長挨拶
- 4 資料説明及び質疑〔事務局〕
- 5 審議

<各委員等発言要旨> （○委員 ◎会長 ※事務局）

（1）第1回諮問会の審議内容についての確認

- すべての受検生が「特色化選抜」と「一般選抜」の両方に出願できるというのは正しい表現ではないのではないか。（「特色化選抜」で合格した受検生は「一般選抜」には出願できない）
- 「行きたい学校」を2種類の選抜基準で挑戦できる可能性が広がることが、現行制度のメリットである。
- 「特色化選抜」も「一般選抜」も同じ高校を受検する機会が多いという理由で、2回の入試を実施（受検機会の複数化）する意味がないということではない。
- 受検機会の複数化を否定的にとらえることから始めるのではなく、成果と課題を総合的に評価した上で検討をすすめてほしい。
- 「特色化選抜」の合格発表の時期が早いのではないか。合格発表後の中学校の生活が長いのではないか。
- 入試期間の長期化については、入試を2回実施することが問題なのではなく、入試期間の長さが問題である。

（2）今後の高等学校入学者選抜の改善の方向性について

- ◎ 今後の高等学校入学者選抜の改善の検討の参考として、平成23年度の入試の状況、同じ高校へ出願している割合（再出願率）、他県の選抜制度について整理したいが、そのことについてはどうか。

※ 再出願率は、過去3カ年間で概ね80%前後である。

※ 他県の制度について、全国状況等を説明

- 多元的な尺度による評価ができなければ、選抜方法によって学校ごとの特色は出せないのではないか。
- 現在の岐阜と同じ課題に直面して改革を実施した県もあり、十分に話し合いをされて作りあげてきた結果、現在の制度に不満はないと聞いている。
- 学力検査を必須とし、基礎学力を共通枠でみていくのが一番。単純な制度である。仮に、1回に集約した制度とした場合、そこに何を加味するのが、今後の課題である。
- 総合的にみると、本県の入試制度の改善を検討するにあたって、現行制度の「特色化選抜」と「一般選抜」を集約したような制度が参考になると思う。
- 主な入試を一つにまとめたとき、定員割れを起こす可能性がある。再募集は必要ではないか。
- 他県では、再募集で私学への入学者が減るのではないかと、(私学では)補欠合格を出すシステムにしたところもある。しかし、実際は私学で合格すれば、公立の再募集はほとんど受検しない。改めて受検するのは負担が大きいのではないか。又、現実には受検生が減っても私学の定員は変わっていない。
- 2回の入試を集約し、1回の入試の中に複数の尺度での評価を入れる方法か、「特色化選抜」の募集人員を少なくして、本当に特色ある生徒だけを選抜する方がよいのではないか。推薦に近い方がよいのではないか。
- 検査問題は学校や家庭で勉強してできるものにしてほしい。学習塾に依存するようではいけない。
- 入試は1回の実施としたうえで、全員が受検する学力検査による選抜と、学校独自の選抜を行うような制度がよいのではないか。
- 全員に学力検査を課すのは意義あることで、中学校、高校のどちらにとっても必要なことである。
- 「特色化選抜」の利点をどのように取り入れていくのか。2回の入試の実施が重要なのではなく、評価の種類を複数もつことの方が重要。
- 今後は、学校独自の方法で何を評価するのか、具体的な検討が必要となってくる。部活動に特化するのか、これまでの「特色化選抜」の延長で考えるのか。
- これまでの「特色化選抜」では特色がでにくいのではないか。
- 学校独自の選抜方法に学力検査が入っていない例もある。学校独自の検査に何を入れるかがポイントである。
- 追試験を実施している県もあるが、これは、発熱などで欠席した受検生が対象か。

※ そのとおりであり、追試験を受けた受検生も含めて合格発表する。

- 学校独自の選抜資料として、非常に高い学力を評価するため、学校独自問題を取り入れてもよいかも知れない。
- ◎ 学校独自の選抜のあり方をどうするのが、今後の主な検討課題。
- 新しい入試制度は、早ければ、現在の中学2年生からの導入が見込まれるが、特に受検生にとっては、入試制度の変更は非常に大きな影響を及ぼすため、事前の周知をできるだけ早く、できるだけ丁寧に行ってほしい。
- 学区は全県一区となるのか、検討する必要があるのではないか。
- ※ 今後の検討課題である。
- ※ 学区のあり方、追試験や再募集、定時制課程の選抜等について、制度の具体的な内容については、次回の諮問会で検討したい。

【審議のまとめ】

- ◆ 現行制度の主な課題（入試期間の長期化による弊害・生徒の心理的負担等）を改善し、現行制度の成果を継承するためには、
 - ・ 「特色化選抜」と「一般選抜」に分けて実施している入試を、一つにまとめ、県統一の試験や選抜方法による入試を基本としながら、学校ごとに独自の検査方法も工夫できるような要素を取り入れた制度が望ましい
 - ・ 多面的尺度による選抜は、何をどのように評価するのかをより明確にすることが望ましいということ
 - ・ 中学校3年間の学習の成果を適正に評価するためには、すべての受検生に学力検査を課すことが望ましいということこの3点を中心とした制度設計が必要と考えられる。
- ◆ 今後、学校独自の選抜方法のより具体的な検討をする必要がある。